



特定非営利活動法人

防災士会 みやぎ

MIYAGI BOUSAISI ORGANIZATION

女性部

Vol.17

2022.1

テーマ「商工業者としての防災知識」
講師 NPO法人防災士会みやぎ
副理事長 若生 彩



- ◆ 理事長 年頭の挨拶
- ◆ 宮城県受託事業報告
- ◆ 会員の声：派遣事業に参加して
- ◆ 特集「輝け!! 女性防災士」
- ◆ 気象予報士会東北ブロックからの寄稿
- ◆ 新理事紹介・トピックス
- ◆ 確認しよう! 避難する or 避難しない
- ◆ NHK仙台放送局ポケット防災手帳
- ◆ コラム・編集後記



令和3年度の活動を振り返って

新型コロナウイルス感染症が2年を過ぎても終息に至らず、デルタ株が落ち着いて来て感染者数も抑え込まれ、そろそろかと思えばオミクロン株という変異株の発生となかなか先が見えない状況が続く一年でした。ワクチン接種の3回目接種の開始や、内服型治療薬の承認の目途もついて来ましたし、現時点でも以前のインフルエンザ感染症での患者数や重傷者・死者数共と比較しても明らかに減少していることから、通常の感染症並への状態に近づいているのではと感じています。

しかし、令和3年度はこの感染症への不安感や対応の難しさから令和2年度以上に厳しい状況となり、本会の活動にも大きな影響が来るのではと予想もして居りました。

そんな中、今年度も過去最高の「講師派遣依頼」や自治体(宮城県・仙台市・大崎市等)からの事業委託の増加、またNHK仙台拠点放送局や企業等から「防災・減災」事業での協業依頼や相談が本当に多かった一年でも有りました。

これもひとえに、各会員がそれぞれ大変な中、本会活動に尽力頂いた事として自治体様や東北大学災害科学国際研究所様、NHK仙台拠点放送局様や仙台管区气象台等々の関係機関の皆様のご尽力のおかげと執行部一同心から感謝申し上げる次第です。本当に令和3年度はお疲れさまでした、そしてありがとうございました。



さて、詳細な活動内容としましては、宮城県からの委託事業「地域防災力向上支援事業」では、4自治体(気仙沼市・女川町・角田市・亶理町)の5地域で「支援事業」を展開しており、新型コロナの影響で活動が制限されている中でも動きが活発化して来ています。また、「講師派遣依頼等」については、派遣依頼自治体数依頼企業数・派遣依頼件数・延従事人数・会員参加者数がそれぞれ過去最高となりました。さらに、令和2年度より集計を行っている本会ホームページの閲覧件数が1日平均140件(4月～11月度間の総閲覧数32,600件)を超え関心の高さを実感しています。

宮城県からは昨年に続き高い評価を頂いており、令和4年度に実施予定の新規事業関係として複数の部局から相談や協力依頼が入って来ております。また、NHK仙台拠点放送局からは新たな協業事業への協力依頼も入っています。なお、本会の会員数も順調に増加傾向で現在所属防災士数138名となりました。

最後に、令和4年度は本年度以上に本会の活動の幅と活動数が増加する事は間違いないと思われまますので、何卒会員の皆様のご協力とご助成を改めてお願い申し上げます。



お知らせ

仙台防災未来フォーラム2022に
防災会みやぎではブース出展します
日時: 令和4年3月5日(土)

9:30~16:30

会場: 仙台国際センター展示棟

仙台防災未来フォーラム2022

■ 公務研修所でのDIG研修

宮城県公務研修所より「主任主査級研修」の中で、「災害対応業務に対する心構えに加え 実際の被災地(避難所)における活動を想定した演習を行い、災害時の現場で求められる行動のあり方について理解を深める。」ことを目的とした業務委託があり、主任主査級研修では田中勢子氏を講師としたクロスロードの研修。私が担当した主査級研修では避難所運営(HUG)で、県職員の主査職相当昇任者約140名が3組に分かれて行われました。

年齢は30代前半の方がほとんどで、避難所体験や運営体験者はごく少数、このような内容の研修は初めての方々でした。

この研修は3日間連続で行われ、初日の午後から3時間の講話・講習です。初めに、「避難所とは？」から始まり、「東日本大震災時、山下中学校避難所の様子」、「コロナ禍での避難や避難所の開設運営に関する国からの通知」、「コロナ下での避難所の開設や運営の仕方」について講義をしてからHUG演習を行いました。

初対面の方が多数のため、初めは遠慮がちな雰囲気でしたが、時間が経つにつれて活発になり、補助者も3名入っていたので、悩んでいる班にも補助者による的確な助言により、予定の時間より早く進む班もありました。

まとめとして、各班で良かったところ、改善が必要なところを発表していただき、全員で共有することができたと思います。

私からは、HUGに正解はないこと、状況に応じて臨機応変に対応することが大切なこと、今回の配置結果がスタートであり今後、状況に応じて「よりベター」な配置を目指して取り組んでいくことが大切であることを話しました。また、「避難所で運営上の課題例」を渡し、どのように対処すればよいか考えて頂くこととし、終了しました。

最後になりましたが、補助者として参加いただいた方々のおかげで円滑に進むことができたこと、感謝申し上げます。



NHK仙台放送局と共に

NHK仙台拠点放送局と本会では「防災・減災の連携協定」を締結して居りますが、災害時の情報提供のみではなく、平時から「防災・減災」の啓蒙活動と伝える活動を行う事となりました。

NHK仙台拠点放送局では、現在自治体へ「防災手帳」を配布したりして活動していますが、なかなか浸透出来ない状況との事でした。そこで、第1弾として本会会員の皆様と本会でやっている防災講話や派遣事業等で「防災手帳」の配布やNHKの防災関連ページ及び記事等を利用しての啓蒙活動を行う事となりました。



NHK仙台拠点放送局より、NHK防災手帳 <https://www.nhk.or.jp/sendai/suigai/date/bousaitecyou.pdf> を頂きましたのでご自由にご活用ください。(10Pに記載しております)

また、NHK仙台拠点放送局の防災関連ページ <https://www.nhk.or.jp/sendai/suigai/>をご活用ください。

会員の声 講師派遣に参加して

派遣事業に参加して 佐藤 恭二防災士(仙台市泉区在住)

「防災士会みやぎ」からの派遣要請にて各自主防災組織への防災教育を特に大崎市にて行ってまいりましたが、市のみならず各自主防災組織の役員と住民の防災対応と訓練による意識が高く教えられる事も多々あった事は特筆すべき事であった。

この防災講話を続けるにあたって思うことは防災士の高い知見を基にした講話と情報の詰め込みが見受けられ



《住民の命を守る》最も重要で基本的部分が薄れてしまわないだろうかと懸念する時がある。又一部の人だけで講話を行うのではなく、もっと多くの防災士に派遣事業への参加を促すことを検討しなければならないのではなかろうか。

令和4年が皆様の上に幸多かれとご祈念申し上げます。

令和3年12月

「派遣事業」に携わって 高橋 弘樹防災士(岩沼市在住)



「派遣事業」で講師を務めさせて頂くにあたり心がけていることがあります。それは、ご依頼の「テーマ」を十分に精査し決して独りよがりの知識の押付けにならないよう考え、参加された皆様がお知りになりたい情報を講話としてお伝えすることです。

今後も「派遣事業」に携わらせて頂けるのであれば、わかりやすく丁寧な言葉で、「命を守る」ことの大切さや「防災」をより深く知って頂けるよう自分自身の学びを高めていきたいと考えています。

派遣事業の実施報告書は「防災士会みやぎ」ホームページの会員ページに掲載しております。

ユーザー名：防災士証登録番号、パスワード：bousaisi

私は、防災士会みやぎの会員として「派遣事業」の一環である防災講演会で講師を務めさせて頂くことがあります。11月にも「古川中央コミュニティ運営協議会」様からご依頼の「逃げキッド」を使用した「マイ・タイムライン作成」の講演会で講師を務めさせて頂きました。



お知らせ

【防災士会みやぎは出展します】

◆令和3年度防災シンポジウム

第16回災害に強いコミュニティのための市民フォーラム
～地域コミュニティの更なる充実のために～

日時：令和4年3月15日(火)

13:00～16:30

場所：東京エレクトロンホール宮城
(宮城県民会館)

入場無料

講師派遣事業報告 **輝いています!! 女性防災士**



■ 繁野みど里防災士(仙台市太白区在住)

大崎市古川地区民生委員講習会 講師で行って来ました!

- 実施日 令和3年10月7日 13:30~14:30
依頼先:大崎市総務部防災安全課・(同)民生部社会福祉課
会場:大崎市古川保健福祉プラザ
派遣先:大崎市古川西地区民生児童委員連絡協議会
「民生委員児童委員の要支援者に対する関わり方について」
- 実施日 令和3年10月8日 14:00~15:00
会場:古川保健福祉プラザ
派遣先:大崎市古川東地区民生児童委員連絡協議会
「警戒レベル及び高齢者に対する対応について」

【講話で工夫した点、今後のために参考となる事】

防災講話では災害時の避難行動要支援者支援体制づくり、災害時要援護者台帳、個別避難計画の策定など、経験に基づく視点での講話を行い、受講者からは多くの質問が寄せられた。

ハザードマップの活用については、浸水想定マップ、内水氾濫ハザードマップをもとにマイ・タイムラインの作成を推奨。災害時要支援者の具体的な避難をイメージし、日頃からの声かけ等、支援者を増やす方法についても伝えた。

東日本大震災の際、繁野防災士は民生委員として安否確認に奔走した経験を持つ。当時の反省から防災士の資格を取得し、現在は町内会長として、西多賀地区SBL会代表として、地域防災に取り組む。



■ 黒田典子防災士(仙台市青葉区在住)

フリーアナウンサー

大崎市視覚障がい者交流会・講師で実施しました!

- 実施日 令和3年7月29日13:00~16:00
依頼先:宮城県視覚障害者情報センター
大崎市総務部防災安全課・(同)民生部社会福祉課
会場:大崎市図書館 研修室
「視覚障がい者のための災害時の心得」

【講話で工夫した点、今後のために参考となる事】

「視覚障がい者の方には「見えかた」のレベルがあり、一概に同じ行動をすすめられるものではないが、共通の課題として、人に依頼すること、迷惑になることを、とても気にされている方が多いようだ。

一人でも多くの仲間、いざという時に頼れる人を作ることが自助になること。平时に避難所に行ってみる、避難訓練に参加することの大切さ(ルートの確認や、地域のことを知る良い機会)について伝えたほか、中村雅彦著「あと少しの支援があれば」の朗読を行った。」

減災絵本「リオン」製作者の一人である黒田防災士は、オンライン防災代表、山元町語り部大使としても活動されている。今回は宮城県北の視覚障がい者の方々に向けて、美しい声で防災について語ってくれた。受講者からは「とても聞き取りやすかった」と好評であった。



講師派遣事業報告 輝いています!! 女性防災士

佐藤 亜矢子防災士(仙台市泉区在住)

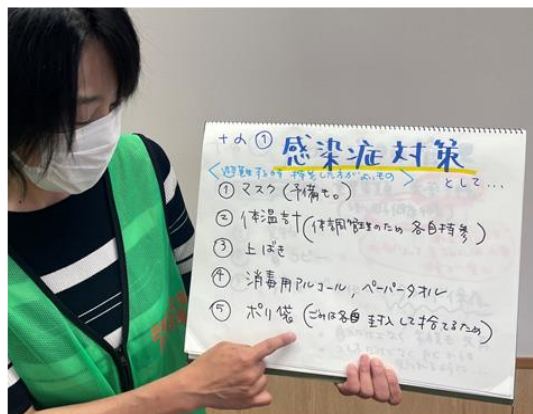
乳幼児世帯向け防災講座を保育園で実施しました。

○ 実施日 令和3年6月25日10:00~11:00
依頼先: 仙台保育所新田こぼと園 地域子育て支援活動担当
会場: 園施設内地域子育て支援センター子育て支援室
育児講座「家庭で考えられる防災、減災について」

【講話で工夫した点、今後のために参考となる事】

- ・宮城野区の中でも地震と水害の心配がある地域であるので「仙台市防災ハザードマップ」だけでなく、宮城野区版の「内水浸水想定区域図(内水ハザードマップ)」を使い、説明した。
- ・乳幼児を抱えての防災・減災で大切な受援力について地域の支援者についても説明した。
- ・パワポが使えない会場だったのでクロッキー帳に手書きしたフリップを活用。使い捨て簡易トイレ、ペットボトルランタン、ペットボトルランタン、液体ミルクなどは実演して見せることで具体的にどういふものか実感してもらえ工夫をした。
- ・コロナ対応で参加人数を絞っての企画であったが、メモをとりながら非常に熱心に受講していた。びっくりと書かれた感想をいただき関心の高さを感じた。

主任児童委員および仙台市地域防災リーダー(SBL)として地域で活動している佐藤防災士は、仙台市職員有志の勉強会「Team Sendai」の伝承活動メンバーとして、また当会の講師としても活躍している。



桑野 知美防災士(角田市在住)

聴覚障がい者 災害時対策講演会での防災講座

○ 実施日 令和3年10月23日13:10~14:20
依頼先: 仙台市聴覚障がい者協会 支援対策部
会場: 仙台市福祉プラザ11階第1研修室
「避難計画作りと避難支援について」

【講話で工夫した点、今後のために参考となる事】

- ・適切な配慮ができるように、事前の打ち合わせで詳細を確認→講演によって参加者に自助力を身につけて欲しい、文字だけではなく絵やグラフが理解しやすい、支援者だけで支援を考えるのではなく当事者と一緒に支援を考えて欲しい、など。
- ・受講者は情報取得をほぼ視覚に頼ることになるので、文字を表示するときはアニメーションを使い、説明が順を追って伝わるようにした。
- ・実際にハザードマップで自宅を確認したり、避難計画づくりを体験することで、具体的に自分の避難を考えられるように工夫した。また、その作業を民生委員の方々にも一緒に体験していただくことで、一緒に避難支援を考えることを疑似体験してもらった。

桑野防災士は東日本大震災後、山元町社協、石巻市社協などで被災者支援に当たり、現在は丸森町社協に在籍している。当会の講師として精力的に活動を行っている。



保田 真理防災士を中心とした女性防災士の活躍 小・中学校での防災教育ならびに訓練実施 大崎市立古川第二小学校・同古川南中学校全生徒対象の防災教室実施

○ 実施日: 令和3年4月27日
依頼先: 大崎市総務部防災安全課・(同)教育委員会
大崎市立古川第二小学校
会場: 小学校各教室内オンライン授業
「水防訓練に係る防災教育訓練」
対象者: 4年生・5年生・6年生対象

【授業の内容】

地震・津波・水害に関するオンデマンド教材を学校の放送設備を利用して、各教室に放送し、児童は各教室で動画の視聴の後、動画から始めて学習した知識・家族と共有したい内容・下学年児童に教えたい内容をグループごとに議論してまとめる作業を通じて防災意識を高めた。児童の防災知識の変化を見るために、事前・事後の災害に対する理解度チェックシートを記入させた。

児童が、興味を持って取り組んでいた点が今後の良い防災学習につながると感じた。

【講話で工夫した点、今後のために参考となる事】

- ・各クラス担任が積極的に防災学習に関わり、今回のイベントが児童のみならず教員の防災意識向上にもつながっていたことがわかった。
- ・児童は、キャラクターが解説する災害のメカニズムなど、視聴しやすく理解が深まったようだ。
- ・放送設備では一方のコミュニケーションなので、学校にWifi環境の整備が急がれると感じた。(保田防災士)

安田防災士は東北大学災害科学国際研究所に所属。減災ポケット「結」プロジェクトの減災意識啓発活動での出前授業を国内はもとより海外でも行っている。防災・減災スタンプラリーを考案し出前授業等で使用している。

○ 実施日: 令和3年4月27日
依頼先: 大崎市総務部防災安全課・(同)教育委員会
大崎市立古川第二小学校
会場: 小学校体育館
「防災教育実習訓練」
対象者: 2年生3クラス

【授業の内容】

防災すごろく

「せんだい人まち交流財団」から防災すごろくセットを借り受けて実施した。

体育館内にパイロン25個を楕円形に配置し、クラス対抗ですごろくゲームを行った。コマになる児童と防災クイズに回答する児童に分かれ、クイズに正解すると、サイコロで出た目の数だけ進めるルール。

通常は途中で缶積み競争や借り物競争を挟むが、今回はコロナ対策として、すごろくのみの実施とした。

【講話で工夫した点、今後のために参考となる事】

- ・密にならないよう、パイロンの間隔を広めにとった。
- ・ホワイトボードにクラス対抗の得点を「ぼうたくんマグネット」で表示した。
- ・防災すごろくセットのクイズの中から子供向けのクイズを選択したほか、クイズの内容は東京消防庁〈キッズコーナー〉〈みんなの防災クイズ〉(低学年向け)を参考に作成した。クイズの回答の後に解説を行い、防災知識の向上に努めた。(若生防災士)

若生防災士は当会副理事長。仙台市地域防災リーダー(SBL)として積極的に防災活動を行っている他、仙台市内118の社会学級をまとめる仙台市社会学級研究会会長として地域の課題等に向き合っている。



一般社団法人日本気象予報士会 東北ブロック理事 氏家尚宣さん



(一社)日本気象予報士会は、幅広い年齢や職業の方々から構成されており、関係する機関、団体と連携し、また会員相互の交流を通じ、気象事業の振興、技能研鑽・向上、気象防災にかかる社会貢献などに取り組んでいる会員数約3,300人の団体です。そのうち約120名が東北支部に所属しております。

主な活動は、月1回の定例会、年2回の防災コミュニケーションツアー、気象台と連携した気象災害に対する啓発活動「みちのくプロジェクト」、日本気象学会東北支部と共催させていただいている「気象サイエンスカフェ」です。

防災士会みやぎの皆さんとは、仙台管区気象台が夏に開催している「お天気フェア」の案内スタッフとしてご一緒させていただいたのがきっかけでつながりました。気象予報士ということで皆さんが思い浮かぶのは、昨年放送されていたNHK連続テレビ小説「おかえりモネ」だと思います。ご覧になられていた方も多かったのではないのでしょうか。

私の本業は宮城県庁の土木技術者です。

気仙沼大島へ渡る気仙沼大島大橋の建設を担当していたこともあり非常に興味深くドラマを見ていました。気仙沼大島大橋(愛称:鶴亀大橋)は橋長L=356mの東日本最大級のアーチ橋です。

平成26年11月に着工し平成31年4月7日に供用を開始しました。橋の桁の中には電線・光ケーブル・水道管といった島へのインフラ供給設備が敷設されており島民の皆さんの命の橋となっております。

強風時の通行規制を設定する上で、予報士としての知識は役立ちました。

今や、橋自体が一大観光スポットとなっており非常に驚いています。



サイエンスカフェ(東北大学川内キャンパス)



観測の様子

防災士会みやぎさんは、防災意識の向上、住民同士の協力体制構築など地域防災にかかわる啓発活動に取り組まれていると うかがっております。

コロナ禍で活動の制約がある状況ですが、共通する部分で連携協力がとれればと考えております。今後ともよろしく申し上げます。



新理事 加藤 忠悦理事



今年度から「防災士会みやぎ」理事を拝命いたしました加藤 忠悦です。
美里牛飼郵便局で局長として勤務しております。私が、防災士の資格を取得したのが2015年12月でした。取得当初は、防災士会みやぎにも入会しておらず、ほとんど活動はしていませんでした。2017年に宮城県北部の郵便局長会として、私を含めた5名が防災士会みやぎに入会しました。防災士会みやぎと大崎市の「防災指導員派遣委託」に基づき、大崎市の自主防災組織育成を目的とした派遣事業で地

元の郵便局長として地域の方々の相談相手となれるように「補助者」や「見学者」として活動をしたことが本格的な動きでした。

その後、防災士会みやぎが主催する研修会等に参加したり、役員の皆さまからアドバイスをいただき、少しずつ学びながら年に数回ですが講師を勤めております。理事として、不慣れな部分が圧倒的に多いですが、皆さまの活動にお役立ちできるように努力して参ります。



東北最年少防災士の誕生!!

当会会員の黒田(小田嶋)典子さんのご子息である壱郎君(小学校6年生)が昨年防災士を取得、東北最年少の防災士として活動を始めました。防災絵本「リオン」の主人公いちろうくんのモデルになった少年です。令和3年度仙台市PTAフェスティバル(オンライン開催)では防災クイズを担当発表、今後の活躍が期待されます。(以下は河北新報より)

仙台市片平丁小6年の小田嶋壱郎君(11)＝仙台市青葉区＝が、NPO法人日本防災士機構(東京)が認定する防災士の資格試験に合格した。機構によると東北で最年少という。先輩防災士の母親に憧れる東北初の小学生防災士は「避難所で被災者のために活動したい」と誓う。

6月下旬に市内で筆記試験を受け、7月5日に合格通知書が届いた。試験は30問の選択問題のうち8割以上の正答必要となる。壱郎君は本番の1カ月前から毎日30分、試験用テキストを読んで要点を確認した。



フリーアナウンサーの母典子さんも2008年に防災士の資格を取得している。東日本大震災後、NPO法人防災士会みやぎ(仙台市)のメンバーとして減災絵本「リオン」の制作に関わり、県内各地の幼稚園などで読み聞かせを続けてきた。

活動をそばで見えてきた壱郎君は「カッコいい」と思い、昨年12月に「試験を受けたい」と典子さんに相談。初挑戦となった3月の試験に不合格後、勉強量を増やして再挑戦した。「今回は自信があった。喜び過ぎて合格通知を破ってしまった」と笑う。

「リオン」では、主人公の妖精が世界を旅しながら津波や台風などの自然災害について教える。聞き手役で登場する「いちろう」のモデルが壱郎君だった。

災害の怖さを知ったいちろうが母親に「これからはぼくがママを守るからね」と話し掛ける場面があり、典子さんは「本の中の話が現実になったようだ」と喜ぶ。壱郎君は「小学校でもリオンの読み聞かせをしてみたい」と意気込む。

(2021年8月5日河北新報)

確認しよう！ 避難する or 避難しない

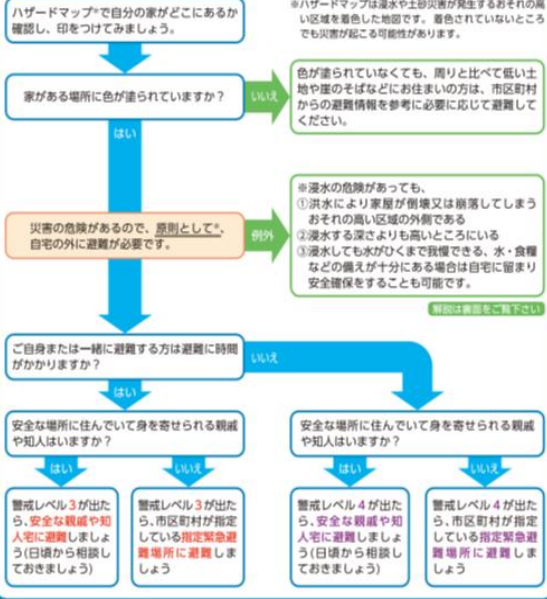
台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

平時に確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？ **必ず取組みましょう**



避難行動判定フローの参考情報

ハザードマップの見方

必ず確認してください

ハザードマップの見方

もっと詳しく知りたい人向け

次の3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

- 1 家屋街境等浸水想定区域に入っていないか
 - ※浸水が早い場合、水害被害を軽減するおそれがあります
- 2 浸水深より居室は高いか
 - ※1階上-1階下浸水 (5m-10m未満)
 - ※1階上-1階下浸水 (5m-10m以上)
 - ※1階上-1階下浸水 (10m以上)
- 3 水がひくまで我慢できるか、水・食糧などの備えは十分か
 - ※1階下 (1階上-1階下浸水)
 - ※1階下 (1階上-1階下浸水)
 - ※1階下 (1階上-1階下浸水)

※1 家屋街境等浸水想定区域、2 浸水継続時間はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住まいの市町村へお問い合わせください。なお、重ねるハザードマップには記載がありません。

- 警戒レベル3や4が出たら、危険な場所から避難しましょう
 - 「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません
 - 避難先は小中学校・公民館だけではなく、安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう
- ※緊急時に身を寄せる避難先は、市町村が指定する「指定緊急避難場所」や、安全な親戚・知人宅など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。
- ※「指定緊急避難場所」は、災害の種類ごとに安全な場所が指定されています。(小中学校、公民館など)
- ※災害が落ち着いた後に、自宅が被災し、帰宅できない場合には、しばらく避難生活を送るため、「指定避難所」に行きましょう。

わからないことがありましたらお住まいの市区町村にお問い合わせください。
(参考) 内閣府防災ホームページ(令和元年台風第19号等による避難に関するワーキンググループ)
<http://www.bousai.go.jp/fusai/typhoonworking/index.html>

台風・豪雨時に「避難情報のポイント」を確認し避難しましょう

緊急時に確認

避難情報のポイント

!.....必ず確認してください.....!

市区町村から出される避難情報(警戒レベル)

- 避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。
 - 危険な場所から警戒レベル3で(高齢者などは避難)、警戒レベル4で(全員避難^{※1})です。
- ※1 警戒レベル4「全員避難」は、高齢者などに限らず全員が危険な場所から避難するタイミングです。



- 警戒レベル5はすでに災害が発生している状況です。
 - 警戒レベル5が出てまだ避難できていない場合は、自宅の少しでも安全な部屋に移動したり、すぐ近くに安全な建物があればそこに移動するなど、命を守るための最善の行動をとってください。
 - 警戒レベル5災害発生情報は、市区町村が災害発生を把握できた場合に、可能な範囲で出される情報であり、必ず出される情報ではありません。
- 豪雨時の屋外避難は危険です。車の移動も控えましょう。
- 警戒レベル4には避難勧告や避難指示(緊急)^{※2}がありますが、いずれにしても警戒レベル4で避難しましょう。
 - 警戒レベル4避難勧告は立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令されるもので、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。
 - ※2 警戒レベル4避難指示(緊急)は、必ず発令されるのではなく、地域の状況に応じて緊急的に又は重ねて避難を促す場合に発令されることがあります。

避難情報のポイント解説

もっと詳しく知りたい人向け

国土交通省・気象庁・都道府県から出される河川水位や雨の情報(警戒レベル相当情報)

危険度分布で、お住まいの地域の状況を確認しましょう

気象庁から市区町村単位の警戒レベル相当情報[※]が出されたら、お住まいの地域の状況が詳細にわかる情報(危険度分布)を確認してください。紫色は危険度が高いことを示しています。

住所を登録しておけば、お住まいの地域が危険になったら自動的にスマートフォンに通知される「危険度分布通知サービス」もありますので、ご活用ください。

紫：崖・渓流の近くは危険
紫：低地は危険
紫：河川沿いは危険

※市区町村単位で発表される情報には、大雨特別警戒、土砂災害警戒情報、洪水警戒などがあります。

市区町村が出す警戒レベルで確実に避難しましょう
気象庁などから出る河川水位や雨の情報を参考に自主的に早めの避難をしましょう

警戒レベル	名称	発令者	内容	避難情報等
5	命を守る最善の行動	市区町村等	避難情報等	避難情報等
4	危険な場所から全員避難	市区町村等	避難情報等	避難情報等
3	危険な場所から高齢者などは避難	市区町村等	避難情報等	避難情報等
2	ハザードマップ等で避難方法を確認	市区町村等	避難情報等	避難情報等
1	避難情報(注意)	市区町村等	避難情報等	避難情報等

※「避難勧告等に関するガイドライン」の趣旨に基づき、より分かりやすい表記にしています。

市区町村長は、警戒レベル相当情報(河川や雨の情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に警戒レベル(避難情報)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

わからないことがありましたらお住まいの市区町村にお問い合わせください。
(参考) 内閣府防災ホームページ(令和元年台風第19号等による避難に関するワーキンググループ)
<http://www.bousai.go.jp/fusai/typhoonworking/index.html>

NHK仙台放送局ポケット防災手帳

平常時からの備えが身を守る

「NHKニュース・防災アプリ」

Point 1

身のまわりの災害リスク確認!

ハザードマップを掲載

洪水の浸水想定、土砂災害の警戒地域が確認できます。

Point 2

河川状況をチェック!

河川情報・河川カメラ

リアルタイムな河川の状況をマップとカメラでチェックできます。

Point 3

災害情報を直接お届け!

3つの地域登録

登録した地域の警報や災害情報をお届けします。

Let's get started.

QRコード

for iPhone/iPad

for Android

「防災備蓄」の準備をしよう!

災害時は数日〜数週間
ライフラインが絶たれる可能性もあります。
もしもの災害に備えて、
防災備蓄の準備や見直しをしてみましょう。

水

1人1日3リットル
(飲料水+調理用水)
最低3日分



NHK 仙台放送局

命を守ろう!
ポケット防災手帳

折りたたんで

万が一に備えて
常に携帯してください。

防災・減災報道はみなさまの受信料で支えられています。

お手続きは「便利で簡単」なWEBから!

お手持ちのスマートフォンからお手続きができます!

新規契約

一人暮らしや単身赴任を始めた方も新規契約のお手続きが必要です。

住所変更

お引越しなどで住所が変わった方はお手続きが必要です。

割引・免除制度

※詳細はホームページをご覧ください。

衛星放送変更

衛星放送を受信できる場合は衛星契約へのご変更をお願いします。

受信料の窓口

契約のお手続きやお支払い方法の変更、家族割引のお申込み、各種お手続き

<https://nhk.jp/jushinryo>



2021年 自治体が発する避難情報に変更になりました

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保!
(警戒レベル4までに必ず避難!)			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示(※)
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難**	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水・高潮注意報(※※)
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報(※※※)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握に必要と認めるものではない等の理由から、警戒レベルは必ず発令されるものではない
 ※2 警戒レベル3は、高齢者以外の人も必要に応じ、自治体の行動を見合わせ始めるため避難を促すタイミングである
 (注) 避難指示は、自治体の避難勧告のタイミングで発令する
 内閣府防災「令和元年台風19号を踏まえた避難情報及び広域避難等に関するサブワーキンググループ」より参照

大切な人と確認しよう

指定緊急避難場所の調べ方 (スマホ)

「ハザードマップポータルサイト」(国土交通省) を利用する場合

- 調べたい災害のアイコンをクリック
例えば「洪水」と「津波」の場合は2つクリック
- 住所を入力 をクリック
- 右下のアイコン をクリック
- 確認したい避難場所 をクリック
- 避難場所名と対応している災害種別が表示される

※指定緊急避難場所は災害種別毎になっています。洪水と津波等で異なることもある為ご注意ください。

※指定緊急避難場所データは国土地理院ウェブサイト掲載のデータです。最新の状況は当該市町村にご確認下さい。

災害発生時も慌てない

危険を察知しよう

災害にはさまざまな種類があります。
 ●地震・津波 ●台風・強風
 ●大雨 ●土砂災害
 など、危険を早く察知することで安全に避難することが可能となります。

例) 土砂災害の前兆

- ⚠ 「山鳴り」や「地響き」などの異常な音が聞こえる
- ⚠ がけの斜面にひび割れができる
- ⚠ がけから小石などがバラバラと落ちてくる
- ⚠ 地面から濁った水が湧き出る

いざという時は…

安全な場所は指定緊急避難場所だけでは限りません。緊急時には、危険区域外の知り合いの家(水平避難)や、近くの鉄筋のマンション、自宅の2階(垂直避難)に避難して助かることもあります。普段から災害の可能性を想定し、命を守るシミュレーションをしておきましょう。



少しでも川・がけより遠くへ



少しでも高いところへ

防災情報はNHKのデータ放送でも確認できます

いざという時に備え避難場所を確認したら、ここに書いておきましょう

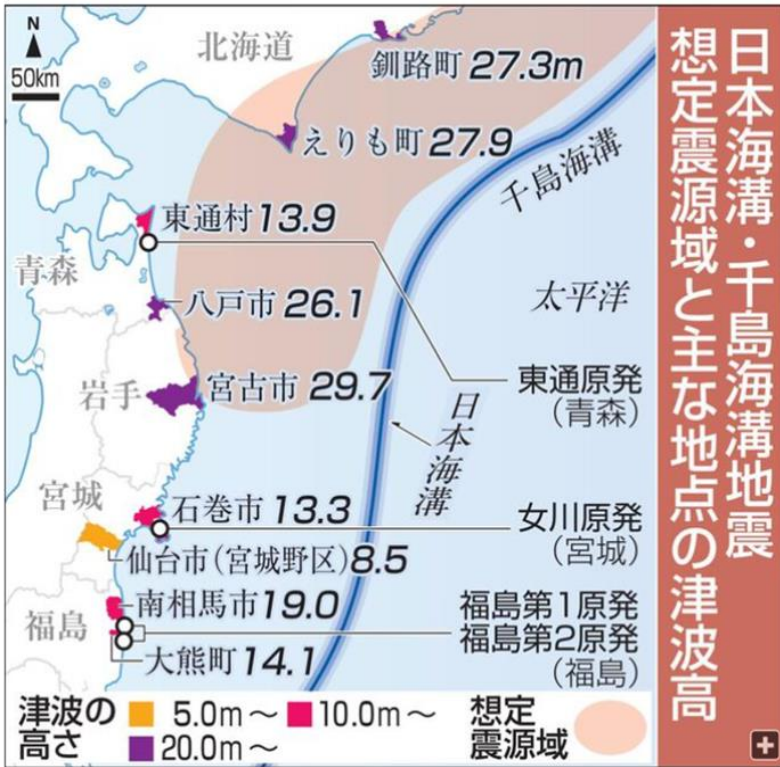
避難場所

家族や友人などの連絡先、いざという時のためにメモしていますか?

スマホの電源が切れた時に備え、必要な電話番号をここに書いておきましょう。

名前	電話番号	住所

東北・北海道で死者19万9000人想定 日本海溝・千島海溝地震



〔表1〕 M9クラスの地震で想定される死者数(人)

早期避難率	夏・昼		冬・夕		冬・深夜	
	高	低	高	低	高	低
北海道	1,900	94,000	9,100	108,000	34,000	137,000
青森県	3,700	33,000	5,600	36,000	9,800	41,000
岩手県	400	8,300	1,200	9,100	3,200	11,000
宮城県	—	7,800	10	8,200	20	8,500
福島県	—	1,200	—	1,100	—	800
その他	—	1,000	—	800	—	700
計	6,000	145,000	16,000	162,000	47,000	199,000

〔注〕「—」は極めて少ない数字。「その他」は秋田、山形、茨城、千葉4県。道県別の合計値は一致しない場合がある
日本海溝モデル

〔表1〕 M9クラスの地震で想定される死者数(人)

早期避難率	夏・昼		冬・夕		冬・深夜	
	高	低	高	低	高	低
北海道	22,000	74,000	30,000	79,000	43,000	85,000
青森県	80	7,500	300	7,400	900	7,500
岩手県	—	3,100	10	2,900	10	2,800
宮城県	—	5,200	—	4,900	—	4,500
福島県	—	300	—	300	—	200
その他	—	160	—	150	—	150
計	22,000	90,000	30,000	94,000	44,000	100,000

〔注〕「—」は極めて少ない数字。「その他」は秋田、山形、茨城、千葉4県。道県別の合計値は一致しない場合がある
千島海溝モデル

〔表2〕 低体温症で死亡リスクが高まる人(冬・深夜)

	日本海溝	千島海溝
北海道	19,000	14,700
青森県	2,500	1,100
岩手県	14,000	2,200
宮城県	6,500	3,900
福島県	50	20
計	42,000	22,000

政府は12月21日、日本海溝・千島海溝沿いでマグニチュード9級の巨大地震が起きた場合、東北や北海道など太平洋沿岸で最大19万9,000人が死亡するとの被害想定を公表した。このうち東北は青森、岩手、宮城、福島4県で6万1,300人に上る。死者はほとんどが津波によるもので、迅速な避難によって8割減らせると試算した。政府は防災対策強化を呼び掛け、今後の対策を具体化させる。二之湯智防災担当相は21日の閣議記者会見で「想定は東日本大震災を教訓に命を守ることを主眼として作成した。正しく恐れ、防災意識の向上につなげる事が大切だ」と述べた。

(令和3年12月22日河北新報より抜粋)

日本海溝・千島海溝地震の政府想定が発表されました。季節、時間帯によっても被害想定は大きく変わります。普段から防災について、周りの人たちと考えることが大切です。

[A.W]

編集後記

令和3年5月の災害対策基本法の改正により警戒レベル3で高齢者等避難となり要援護者への支援が一層重要となりました。近所の助け合いの必要性を益々感じています。

[M.S]

発行 特定非営利活動法人 防災士会みやぎ

■ 発行者 理事長 児玉敏幸
 広報部 会報作成委員会
 〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地
 みやぎNPO プラザ内 No.22
 連絡先：080-1821-0335

皆様からの情報・ご意見はメールでお待ちしております。 jimukyoku@bousaishi-miyagi.org